

産地活性化総合対策事業（平成30年度国産花きイノベーション推進事業）に関する事業評価票（再評価）

都道府県名	事業実施主体名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	基準値	目標値	達成状況		具体的な取組内容	事業内容 (検討会構成員、実施回数、実証試験の内容等)	地方農政局長等の意見
						目標年 (R5)	達成度合			
青森県	青森県花のくづくり推進協議会	平成30年度	青森県産花き出荷額の増加	1,886百万円	2,075百万円	941百万円	-50%	・需要に応じた国産花きの生産及び安定供給技術の実証	・産地における赤色LED電照処理実証	生産供給体制の強化のため、トルコギキョウの品質向上のための赤色LED電照処理技術を検証し、実証結果のマニュアルを作成する等、成果目標の達成に寄与する取組を行ってきたものの、成果目標の達成には至らなかった。 このため改善計画書の提出を求め、成果目標の達成に向け、必要な指導を行うこととする。
		平成30年度	青森市の1世帯（2人以上の世帯）当たり切り花購入金額の増加	10,069円	11,076円	8,250円	-18%	・フラワーコンテスト、シンポジウム等の開催 ・学校、福祉施設等での花育体験推進	・県産花きのプロモーション活動の実施 ・児童、生徒を対象とした花育体験実施 ・社会人を対象としたフラワーアレンジメント体験教室実施	花育体験・園芸体験等の実施や県産花きのプロモーション活動を通して需要拡大を図り、成果目標の達成に寄与する取組を行ってきたものの、成果目標の達成には至らなかった。 このため改善計画書の提出を求め、成果目標の達成に向け、必要な指導を行うこととする。
		平成30年度	取組に参加した福祉施設のうち園芸福祉体験を「今後取り組みたい」施設数を増加	3施設	4施設	0施設	-300%	・フラワーコンテスト、シンポジウム等の開催 ・学校、福祉施設等での花育体験推進	・県産花きのプロモーション活動の実施 ・児童、生徒を対象とした花育体験実施 ・社会人を対象としたフラワーアレンジメント体験教室実施	花育体験・園芸体験等の実施や県産花きのプロモーション活動を通して需要拡大を図り、成果目標の達成に寄与する取組を行ってきた。一方、当成果目標の達成のため、市場等関係機関からの働きかけにより、福祉施設への園芸福祉体験の実施を打診したが、高齢者への感染症拡大を懸念する声が強くなったことにより実施はかなわなかった。 このため改善計画書の提出を求め、成果目標の達成に向け、必要な指導を行うこととする。
岩手県	いわて花と緑の普及協議会	平成30年度	盛岡市の1世帯（2人以上の世帯）当たり「切り花」購入金額の増加	11,174円	12,292円	10,949円	-20%	・花き関係者の連携への支援 ・生産・加工・流通における口持ち性の向上のための品質管理技術の実証 ・国産花きの需要拡大	・新しいいわての花き需要に係る検討委員会の開催 ・りんどう口持ち性向上のための鮮度保持試験の実施 ・「いわてフラワーウィーク」の開催 ・花育体験、園芸福祉体験の実施	花き需要に係る検討委員会の開催や「いわてフラワーウィーク」の開催、花育体験・園芸福祉体験の実施等、成果目標の達成に寄与する取組を行ってきたものの、成果目標の達成には至らなかった。 このため改善計画書の提出を求め、成果目標の達成に向け、必要な指導を行うこととする。
		平成30年度	地方卸売市場における花き（切り花本数）の取扱量の増加	23,231千本	25,555千本	18,450千本	-206%	・花き関係者の連携への支援 ・生産・加工・流通における口持ち性の向上のための品質管理技術の実証 ・国産花きの需要拡大	・新しいいわての花き需要に係る検討委員会の開催 ・りんどう口持ち性向上のための鮮度保持試験の実施 ・「いわてフラワーウィーク」の開催 ・花育体験、園芸福祉体験の実施	花き需要に係る検討委員会の開催や「いわてフラワーウィーク」の開催、花育体験・園芸福祉体験の実施等、成果目標の達成に寄与する取組を行ってきたものの、成果目標の達成には至らなかった。 このため改善計画書の提出を求め、成果目標の達成に向け、必要な指導を行うこととする。
宮城県	宮城県花と緑普及促進協議会	平成30年度	宮城県産きく類の産出額の増加	1,078百万円	1,186百万円	794百万円	-263%	・栽培管理技術の実証及び販売評価調査 ・フラワーコンテスト、花文化の展示会等の開催 ・事業の効果的推進のための検討会議の開催	・シクラメン及び花壇用苗もの類における「バブル水」の活用による出荷率向上加工技術の高度化等の実証及び販売評価調査 ・生産者の輸送コスト及び小売店の廃棄コスト削減に向けた「（仮称）エコ小ぎく」の加工流通実証 ・みやぎフラワーフェスティバルの開催 ・学校等での花育体験	取組により生産技術向上や輸送・廃棄コストの削減による県産花きの安定供給及び品質向上、展示会や花育による興味関心の高まりや家庭での購入機会の増加等を図り、成果目標の達成に寄与する取組を行ってきたものの、成果目標の達成には至らなかった。 このため改善計画書の提出を求め、成果目標の達成に向け、必要な指導を行うこととする。
		平成30年度	宮城県産鉢物類及び花壇用苗もの類の産出額の増加	1,256百万円	1,382百万円	828百万円	-340%	・栽培管理技術の実証及び販売評価調査 ・フラワーコンテスト、花文化の展示会等の開催 ・事業の効果的推進のための検討会議の開催	・シクラメン及び花壇用苗もの類における「バブル水」の活用による出荷率向上加工技術の高度化等の実証及び販売評価調査 ・生産者の輸送コスト及び小売店の廃棄コスト削減に向けた「（仮称）エコ小ぎく」の加工流通実証 ・みやぎフラワーフェスティバルの開催 ・学校等での花育体験	取組により生産技術向上や輸送・廃棄コストの削減による県産花きの安定供給及び品質向上、展示会や花育による興味関心の高まりや家庭での購入機会の増加等を図り、成果目標の達成に寄与する取組を行ってきたものの、成果目標の達成には至らなかった。 このため再度改善計画書の提出を求め、成果目標の達成に向け、必要な指導を行うこととする。
		平成30年度	宮城県産花きの出荷数量の増加	48,296千本・千鉢	38,984千本・千鉢	29,200千本・千鉢	-395%	・栽培管理技術の実証及び販売評価調査 ・フラワーコンテスト、花文化の展示会等の開催 ・事業の効果的推進のための検討会議の開催	・シクラメン及び花壇用苗もの類における出荷率向上加工技術の高度化等の実証及び販売評価調査 ・生産者の輸送コスト及び小売店の廃棄コスト削減に向けた「エコ小ぎく」の加工流通実証 ・みやぎフラワーフェスティバルの開催 ・学校等での花育体験	取組により生産技術向上や輸送・廃棄コストの削減による県産花きの安定供給及び品質向上、展示会や花育による興味関心の高まりや家庭での購入機会の増加等を図り、成果目標の達成に寄与する取組を行ってきたものの、成果目標の達成には至らなかった。 このため再度改善計画書の提出を求め、成果目標の達成に向け、必要な指導を行うこととする。

都道府県名	事業実施主体名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	基準値	目標値	達成状況		具体的な取組内容	事業内容 (検討会構成員、実施回数、実証試験の内容等)	地方農政局長等の意見
						目標年 (R5)	達成度合			
秋田県	秋田県花きイノベーション推進協議会	平成30年度	重点戦略5品目（キク類、リンドウ、トルコギキョウ、ユリ類、ダリア）の系統販売実績(JA全農秋田)の増加	18億3千万円	23億7千万円	16億3千万円	-37%	<ul style="list-style-type: none"> 産地間連携の取組の実施 需要に応じた国産花きの生産及び安定供給技術の実証 フラワーコンテスト、シンポジウム等の開催 学校・福祉施設等での花育体験推進 	<ul style="list-style-type: none"> ダリアの栽培技術検討会、リレー出荷に向けた技術交流会の実施 デイスパッドマムに関する需要調査の実施、実証は設置、技術研修会の開催、栽培マニュアル作成 県産花きのプロモーション活動の実施 花育体験（一花一葉講座等）の推進 	生産技術向上のための取組や花きのプロモーション活動の実施等、成果目標の達成に寄与する取組を行ってきたものの、猛暑と大雨の影響により、開花の前進や遅延、高温障害、生育停滞、株落ち、害虫の多発などが生じ出荷量が激減したことから、目標を達成することができなかった。 このため再度改善計画書の提出を求め、成果目標の達成に向け、必要な指導を行うこととする。
		平成30年度	東京大田市場へのダリア出荷数量の増加	56万本	107万本	22万本	-67%	<ul style="list-style-type: none"> 産地間連携の取組の実施 需要に応じた国産花きの生産及び安定供給技術の実証 フラワーコンテスト、シンポジウム等の開催 学校・福祉施設等での花育体験推進 	<ul style="list-style-type: none"> ダリアの栽培技術検討会、リレー出荷に向けた技術交流会の実施 デイスパッドマムに関する需要調査の実施、実証は設置、技術研修会の開催、栽培マニュアル作成 県産花きのプロモーション活動の実施 花育体験（一花一葉講座等）の推進 	生産技術向上のための取組や花きのプロモーション活動の実施等、成果目標の達成に寄与する取組を行ってきたものの、猛暑と大雨の影響により、株落ちや生育停滞が見られ出荷量が激減したこと、秋田県産ダリアの知名度が高まり他市場への出荷が増えてきたことにより出荷先が分散したため、成果目標の達成には至らなかった。 このため再度改善計画書の提出を求め、成果目標の達成に向け、必要な指導を行うこととする。
		平成30年度	秋田市の1世帯（2人以上の世帯）当たり「切り花」購入金額の増加	9,554円	10,509円	10,734円	123%	<ul style="list-style-type: none"> 産地間連携の取組の実施 需要に応じた国産花きの生産及び安定供給技術の実証 フラワーコンテスト、シンポジウム等の開催 学校・福祉施設等での花育体験推進 	<ul style="list-style-type: none"> ダリアの栽培技術検討会、リレー出荷に向けた技術交流会の実施 デイスパッドマムに関する需要調査の実施、実証は設置、技術研修会の開催、栽培マニュアル作成 県産花きのプロモーション活動の実施 花育体験（一花一葉講座等）の推進 	成果目標は達成しており、事業の取組の成果が認められる。 これは、秋田市内の小学校4校において「一花一葉」花育講座を行い参加した児童や保護者の花きへの興味関心が高まり、花育体験後の花きの購入が増加したことから消費拡大効果が得られた。
		平成30年度	秋田市の1世帯（2人以上の世帯）当たり「園芸用植物」購入金額の増加	2,901円	3,191円	3,328円	147%	<ul style="list-style-type: none"> 産地間連携の取組の実施 需要に応じた国産花きの生産及び安定供給技術の実証 フラワーコンテスト、シンポジウム等の開催 学校・福祉施設等での花育体験推進 	<ul style="list-style-type: none"> ダリアの栽培技術検討会、リレー出荷に向けた技術交流会の実施 デイスパッドマムに関する需要調査の実施、実証は設置、技術研修会の開催、栽培マニュアル作成 県産花きのプロモーション活動の実施 花育体験（一花一葉講座等）の推進 	成果目標は達成しており、事業の取組の成果が認められる。 これは、秋田市内の小学校4校において「一花一葉」花育講座を行い参加した児童や保護者の花きへの興味関心が高まり、花育体験後の花きの購入が増加したことから消費拡大効果が得られた。
		平成30年度	秋田市の1世帯（2人以上の世帯）当たり「園芸用品」購入金額の増加	2,896円	3,185円	4,348円	502%	<ul style="list-style-type: none"> 産地間連携の取組の実施 需要に応じた国産花きの生産及び安定供給技術の実証 フラワーコンテスト、シンポジウム等の開催 学校・福祉施設等での花育体験推進 	<ul style="list-style-type: none"> ダリアの栽培技術検討会、リレー出荷に向けた技術交流会の実施 デイスパッドマムに関する需要調査の実施、実証は設置、技術研修会の開催、栽培マニュアル作成 県産花きのプロモーション活動の実施 花育体験（一花一葉講座等）の推進 	成果目標は達成しており、事業の取組の成果が認められる。 これは、秋田市内の小学校4校において「一花一葉」花育講座を行い参加した児童や保護者の花きへの興味関心が高まり、花育体験後の花きの購入が増加したことから消費拡大効果が得られた。
山形県	山形県花き生産連絡協議会	平成30年度	山形県産花きの産出額の増加	72億円	80億円	70億円	-25%	<ul style="list-style-type: none"> 需要に応じた国産花きの生産及び安定供給技術の実証 生産・加工・流通における日持ち性の向上のための品質管理技術の実証 フラワーコンテスト、シンポジウム等の開催 花き関係者の連携への支援 	<ul style="list-style-type: none"> 県産花きの栽培技術向上のための実証 市場と連携した日持ち性調査の取組 市場における花きイベントの開催 県産花きのプロモーション活動の実施 	取組により生産技術向上による県産花きの安定供給及び品質向上、展示会や花育による興味関心の高まりや家庭での購入機会の増加等を図り、成果目標の達成に寄与する取り組みを行ってきたものの、成果目標の達成には至らなかった。 このため再度改善計画書の提出を求め、成果目標の達成に向け、必要な指導を行うこととする。
		平成30年度	山形県花き地方卸売市場取扱い数量の増加	20,400千本	22,440千本	14,190(千本)	-30%	<ul style="list-style-type: none"> 需要に応じた国産花きの生産及び安定供給技術の実証 生産・加工・流通における日持ち性の向上のための品質管理技術の実証 フラワーコンテスト、シンポジウム等の開催 花き関係者の連携への支援 	<ul style="list-style-type: none"> 県産花きの栽培技術向上のための実証 市場と連携した日持ち性調査の取組 市場における花きイベントの開催 県産花きのプロモーション活動の実施 	取組により生産技術向上による県産花きの安定供給及び品質向上、展示会や花育による興味関心の高まりや家庭での購入機会の増加等を図り、成果目標の達成に寄与する取り組みを行ってきたものの、成果目標の達成には至らなかった。 このため再度改善計画書の提出を求め、成果目標の達成に向け、必要な指導を行うこととする。
		平成30年度	山形市における1世帯当たり（2人以上の世帯）年間の購入金額の増加	12,591円	13,851円	12,162円	-34%	<ul style="list-style-type: none"> 需要に応じた国産花きの生産及び安定供給技術の実証 生産・加工・流通における日持ち性の向上のための品質管理技術の実証 フラワーコンテスト、シンポジウム等の開催 花き関係者の連携への支援 	<ul style="list-style-type: none"> 県産花きの栽培技術向上のための実証 市場と連携した日持ち性調査の取組 市場における花きイベントの開催 県産花きのプロモーション活動の実施 	特定の品目に着目した品評会や展示会の開催、花育体験・園芸体験等の実施や県産花きのプロモーション活動、その他プロモーション活動を通して需要拡大を図り、成果目標の達成に寄与する取り組みを行ってきたものの、成果目標の達成には至らなかった。 このため再度改善計画書の提出を求め、成果目標の達成に向け、必要な指導を行うこととする。

都道府県名	事業実施主体名	事業実施初年度	成果目標の具体的な内容	基準値	目標値	達成状況		具体的な取組内容	事業内容 (検討会構成員、実施回数、実証試験の内容等)	地方農政局長等の意見
						目標年 (R5)	達成度合			
福島県	福島県花き振興協議会	平成30年度	花き品評会への出点数120点以上	-	120点	175点	146%	・フラワーコンテスト、シンポジウム等の開催 ・花き関係者の連携への支援 ・学校、福祉施設等での花育体験推進	・協議会の設置、運営 ・フラワーコンテスト、花文化展示会、セミナーの開催 ・学校等での花育体験推進	成果目標は達成しており、事業の取組の成果が認められる。
		平成30年度	セミナー等への参加人数50名以上	-	50名	153名	306%	・フラワーコンテスト、シンポジウム等の開催 ・花き関係者の連携への支援 ・学校、福祉施設等での花育体験推進	・協議会の設置、運営 ・福島県花き品評会、花きセミナーの開催 ・学校等での花育体験推進	成果目標は達成しており、事業の取組の成果が認められる。
		平成30年度	福島市における1世帯当たり(二人以上の世帯)年間の切花支出金額の増加	13,043円	14,348円	11,959円	-83%	・フラワーコンテスト、シンポジウム等の開催 ・花き関係者の連携への支援 ・学校、福祉施設等での花育体験推進	・協議会の設置、運営 ・福島県花き品評会、花きセミナーの開催 ・学校等での花育体験推進	福島県花き品評会、花きセミナー等の実施や学校や福祉施設等での花育体験・園芸体験の実施を通して需要拡大を図り、成果目標の達成に寄与する取り組みを行ってきたものの、成果目標の達成には至らなかった。 このため改善計画書の提出を求め、成果目標の達成に向け、必要な指導を行うこととする。
		平成30年度	花育の取組に参加した生産者の生産額を直近年度(H29、JASくし)と未来管内花き販売額実績)の増加	166,186千円	182,900千円	823,681千円	3934%	・フラワーコンテスト、シンポジウム等の開催 ・花き関係者の連携への支援 ・学校、福祉施設等での花育体験推進	・協議会の設置、運営 ・福島県花き品評会、花きセミナーの開催 ・学校等での花育体験推進	成果目標は達成しており、事業の取組の成果が認められる。
		平成30年度	花育を体験した保護者(1人当たり1か月間)の購入頻度を現状と比較して増加	0.89回	0.98回	0.44回	-500%	・学校、福祉施設等での花育体験推進	・小学校での花育体験推進	学校や福祉施設等での花育体験・園芸体験の実施を通して需要拡大を図り、成果目標の達成に寄与する取り組みを行ってきたものの、成果目標の達成には至らなかった。 このため改善計画書の提出を求め、成果目標の達成に向け、必要な指導を行うこととする。
福島県 浪江町	浪江町花き生産供給力強化協議会	平成30年度	カキツバタ、コウホネ、日本水仙について、花・葉・実などをセットにした生産物を全品目合わせて120セット生産する。	70セット	120セット	0セット	0%	・少量花材等の生産及び安定供給技術の実証	・花き3品目(カキツバタ、コウホネ、日本水仙)の栽培実証	取組により、東日本大震災に伴う原子力災害により農林水産業がほぼ途絶えた形となった浪江町において、風評被害の影響を受けにくく、かつ生け花用として需要が高く供給が少ないカキツバタ、コウホネ、日本水仙の3品目(以下「生け花用3品目」と呼ぶ)の栽培実証を行い、栽培マニュアル作成や栽培技術普及活動の実施による産地化を目指した。 事業を実施した結果、土壌の地力が想定外に弱く、栽培環境が整わなかったことにより、生け花として使用するレベルまでの育成ができなかった。その後、農業改良普及所に相談しながら作付けを継続したが、栽培成功には至らず、結果、浪江町での生け花用3品目の栽培は地形・地質・気候などの風土に馴染まないと考えているところである。 また、浪江町では本事業の実施で習得した花きの栽培管理技術を活かして、花きの安定生産及び品質向上に力を入れている。浪江町における花きの生産額は20,780千円→62,006千円(R2→R5)と大幅に増加、栽培農家数も7→13(R2→R5)に増加するなど、成果があったものの、取組内容の再検討を含め改善計画書の提出を求め、成果目標の達成に向け、必要な指導を行うこととする。
		平成30年度	各品目の生産物について、流通関係者や消費者に対する販売評価試験を実施し、「低評価」、「並びの評価」、「高評価」のうち50%以上の高評価を得る。	20%	50%	0%	0%	・少量花材等の生産及び安定供給技術の実証	・花き3品目(カキツバタ、コウホネ、日本水仙)の栽培実証	